

島しょ地域における災害時保健活動強化事業	
島しょ保健医療圏	
実施年度	開始 令和6年度 終了 令和6年度
背 景	○ 島しょ地域では、以前から噴火、地震、津波、風水害など様々な自然災害のリスクを抱えている。具体的には伊豆大島の三原山が前回の噴火から 35 年以上経過し、過去の周期から噴火が近々起こりえる点、南海トラフ地震及び首都直下地震が今後 30 年以内に 80%の確率(令和7年1月1日時点)で発生する点、地震発生に伴い各島の津波被害のリスクが高い点が挙げられる。また、近年では、平成25年の伊豆大島での土砂災害、近隣地域において令和3年の熱海市伊豆山の土砂災害が発生しており、大規模な被害を及ぼす風水害の危険性も高まっている。 ○ 一方で、島しょ地域は、保健、医療ともに人的及び物的資源に限りがあり、発災時には、本土からの支援を受けるまで時間を要し、交通路となる海路、空路ともに寸断されるリスクがある。そのため、特に超急性期（発生 72 時間以内、フェーズ0～1）は本土からの支援を得ずに、島しょ地域での限られた資源の中で災害対応を行う事態が起こり得る。 ○ 島しょ保健所では、「災害時における島しょ保健所活動マニュアル」を定め、改訂を図り運用を行っているが、個々の職員が発災時に求められる行動をより明確にし、組織として災害時の活動を円滑に行えるように事前準備が求められる。 ○ 島しょ保健所での災害時保健活動の基盤を作った上で、島しょ各町村の地域防災計画をもとに、町村と災害時保健活動の連携を更に強化する必要がある。
目 標	○ 計画全体では、島しょ地域での災害時保健活動を、大島出張所内に加え、各町村等の関係機関との連携も含めて整備することを目標とする。 ○ 災害時保健活動の専門家（講師）と連携し、各職種の災害時における行動をより明確化し、保健所内の災害時保健活動体制を整備することを目標とする。
事業内容	【令和4、5年度】 ○ 大島出張所内で災害対応オリエンテーションや避難所運営ゲーム（HUG）研修を実施した。 ○ 災害時保健活動の専門家による新島・神津島の現地視察と、島しょ地域の特性を踏まえた講演会を行い、より各島の特性に合わせた災害対応能力を高めた。 【令和6年度】 ○ 災害時保健活動の専門家によるオンライン講演会、意見交換や管内関係機関とHUG研修を実施し、職員の災害対応に対する知見と意識を高めた。 ○ 各職種が災害へ対応するため、令和5年度に大島出張所で策定したアクションカードをもとに、新島支所、神津島支所の各支所のアクションカードを整備した。
評 価	○ 専門家を招いての講演会等を通じて、島しょ地域での災害時保健活動を、大島出張所内に加え、各町村等の関係機関との連携も含めて整備することができた。 ○ 大島町役場、大島支庁、教育庁大島出張所の職員でHUG研修を実施し、避難所運営を疑似体験することで、災害時の行動判断を考える契機ができた。 ○ 新島支所・神津島支所で使用するアクションカードを作成し、災害時保健所活動体制を整備することができた。 ○ 引き続き、都や町村関係機関との連携強化を図っていく。
問 合 せ 先	島しょ保健所 総務課 庶務担当 電 話 03-5320-4342 ファクシミリ 03-5388-1438 E-mail S1153601@section.metro.tokyo.jp

1 事業背景・目的

島しょ地域では、以前から噴火、地震、津波、風水害など様々な自然災害リスクを抱えている。具体的には伊豆大島の三原山が前回の噴火から 35 年以上経過し、過去の周期から噴火が近々起こりえる点、南海トラフ地震及び首都直下地震が今後 30 年以内に 80%の確率(令和 7 年 1 月 1 日時点)で発生する点、地震発生に伴い各島の津波被害のリスクが高い点が挙げられる。近年では、平成 25 年に伊豆大島での土砂災害が発生するなど大規模な被害を及ぼす風水害の危険性も高まっている。

一方で、島しょ地域は、保健、医療ともに人的及び物的資源に限りがあり、発災時には、本土からの支援を受けるまで時間を要し、交通路となる海路、空路ともに寸断されるリスクがある。そのため、特に超急性期(発生 72 時間以内、フェーズ 0～1)は本土からの支援を得ずに、島しょ地域での限られた資源の中で災害対応を行う事態が起こり得る。

島しょ保健所では、「災害時における島しょ保健所活動マニュアル」を定め、改訂を図り運用を行っているが、個々の職員が発災時に求められる行動をより明確にし、組織として災害時の活動を円滑に行えるように事前準備が求められる。

島しょ保健所での災害時保健活動の基盤を作った上で、島しょ各町村の地域防災計画をもとに、町村と災害時保健活動の連携をより一層強化する必要がある。

2 事業内容

(1) 災害対応オリエンテーションの実施

大島出張所の全職員を対象に災害対応オリエンテーションを実施した。大島出張所の防災担当者が大島管内で過去に発生した自然災害の概要や南海トラフ地震の被害想定、島しょ保健所大島出張所における災害対応体制を説明した。各職員が大島管内における災害のリスクや発災時の対応について知見を深めることができた。

(2) 避難所運営ゲーム(HUG)研修の実施

大島町役場、総務局大島支庁、教育庁大島出張所及び大島出張所で HUG 研修を実施した。計 2 回合わせて 30 人ほどの参加があった。

所属・職種・職層の異なる 5～6 名でグループを編成し、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に避難者を配置し、避難所で起こる様々なイベントにどのように対応するか疑似体験した。

参加者からは、「HUG 研修を実施後に災害発生時の組織や自分の役割を考えるきっかけとなった」、「日頃からの訓練の必要性を感じ、コミュニケーションを密にとることが大事である」などの意見がでた。

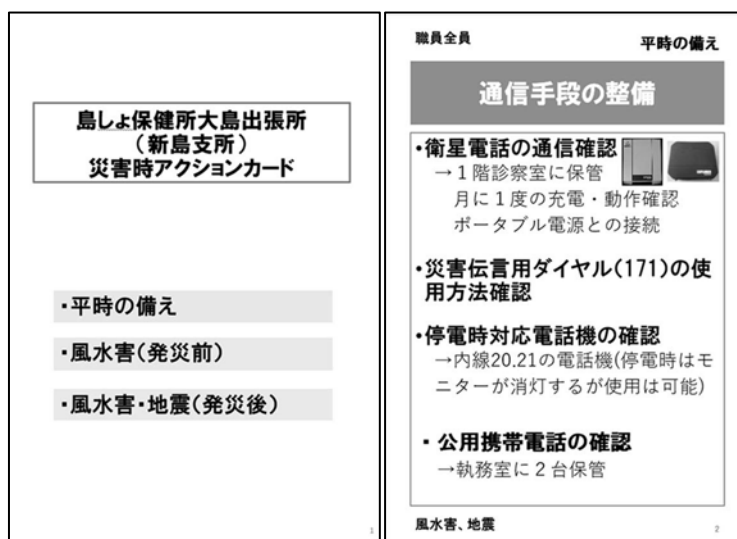


【HUG 研修の様子】

(3) アクションカード

新島支所、神津島支所にて、平時及び発災時の初動対応をまとめたアクションカードを作成した。アクションカードは「平時の備え編」「地震編」「風水害編」の3種類を作成した。「平時の備え編」では、非常用発電機の定期的なメンテナンスや、衛星通信端末の充電等について記載した。「地震編」では、災害時活動に影響を及ぼす被害を受ける可能性もあることから、登庁前の庁舎被害確認を盛り込んだ。「風水害編」では、過去に窓や扉の隙間から雨が侵入した経験を踏まえて、OA機器などをブルーシートで覆うことなどを記載した。また、少人数かつ多職種職場であることから、その職種の職員が不在であっても必要最小限の初動対応を取れるように配慮した。

さらに、アクションカードの作成に合わせて、支所内に配備されている非常用発電機や衛星通信端末の簡易マニュアルを作成するとともに、操作実演会を実施した。



【アクションカード 平時の備え編（抜粋）】

(4) 講演会等

国立保健医療科学院の富尾部長と奥田主任技術員を講師に招き、令和6年10月に災害時の公衆衛生活動をテーマにオンライン講演会を開催した。町村の職員、総務局大島支庁各出張所の職員、島しょ保健所総務課及び各出張所の職員等30名ほどが聴講した。各職員が災害時の健康課題や外部支援等について知見を深めることができた。

(5) 所内防災訓練

大島出張所の職員を対象にアクションカードの素案を実際に使用して発災時の初動について訓練を実施した。

平日日中に地震が発生したと想定し、アクションカードに従い庁舎の安全確認や第一報の報告、非常用発電機や衛星通信端末の操作方法等について確認した。訓練後、振り返りを行いアクションカードのブラッシュアップを行った。

職員が実際に発災時に行うべき行動が明確になり、災害に対する意識向上にもつながった。



【所内防災訓練の様子（左：発電機使用訓練、右：衛星電話使用訓練）】

3 評価と今後の取組

新島支所・神津島支所でもアクションカードを作成することができた。HUG研修や専門家を招いての講演会等を通じて、島しょ地域での災害時保健活動を大島出張所内に加え、各町村等の関係機関との連携も含めて整備することができた。

今後は、引き続き、HUG研修等を通じて、町村役場（大島町、利島村、新島村、神津島村）、総務局大島支庁や教育庁大島出張所とのつながりを継続していく。新島支所・神津島支所のアクションカードを使用して、大島出張所と合同で運用訓練を行い、出張所と支所の災害時保健活動の連携を強化していく。